

インターネットを利用したマルチメディア学習教材の研究と開発

上部 貴夫（明和町立明星小学校）	藤高 洋一（香良洲町立香良洲小学校）
谷本 康（関町立関小学校）	庄山 邦彦（三雲町立太白小学校）
川北 浩二（鈴鹿市立白子小学校）	中条 祐子（四日市市立大池中学校）
筒井 努（県立水産高等学校）	金丸 勝実（三重県総合教育センター）
勢力 稔（三重県総合教育センター）	村井 司（三重県総合教育センター）
小竹 篤（三重県総合教育センター）	中村 武弘（三重県総合教育センター）
上谷 典秀（三重県総合教育センター）	

1 研究の趣旨

平成 12 年度から移行が始まる新学習指導要領では、情報手段の活用が義務づけられており、それに向けて次々と新たな研究事業が実施されると同時に、ネットワークや情報機器の整備が進んでいる。

このようにインフラの整備は着実になされているが、児童生徒の興味・関心を引き出し、創造性や思考力を育成する良質の教育用ソフトウェアは不足しているのが現状である。新学習指導要領において「総合的な学習の時間」が設けられたことは大きな特色となっている。この時間においては各学校が独自のカリキュラムを編成することができ、地域教材を取り入れることにより、特色を持たせることができる。そのためには、やはり地域性を生かした児童生徒の興味・関心を引き出すことができるマルチメディア学習教材の開発と整備が必要となってくる。

そこで本課題研究においては昨年度に引き続き、三重県内の各地で取材活動をしてデータを集め、マルチメディア学習教材を作成し、当センターが運用する WWW サーバへ登録した。これらのデータを活用することにより、21 世紀の高度情報化社会に生きる児童生徒に対して、適切な情報活用能力（情報リテラシー）の育成が図られることを期待したい。

2 研究の内容

本年度は次の 11 のテーマについて取材を行い、インターネットで利用できる、マルチメディアの特色を生かした地域教材の研究開発を行った。

- (1)自動販売機工場・・・私たちの生活と深く結びついている自動販売機生産高日本一の製造工場
- (2)桑名の鋳物工業・・・かき氷機、マンホール蓋など身近な鋳物製品を送り出す桑名の伝統産業
- (3)日永のうちわ・・・古くから東海道の参宮土産とし盛況し、今もわずかに残る伝統工芸
- (4)川越火力発電所・・・私たちの生活を支える電力を作り出す、日本最大級のガス火力発電所
- (5)四日市港管理組合・・・中部圏における代表的な国際貿易港である四日市港の役割・特徴・施設
- (6)名張の松明・・・一ノ井の松明講による、二月堂のお水取に使う松明の伝統的な寄進行事
- (7)明星の旅籠・・・旅籠和泉屋に残る当時の伊勢参宮の街道の賑わいをしのばせる物品
- (8)擬革紙・・・江戸時代等に参宮の土産として和紙を加工し煙草入れなどにした物品
- (9)海洋生物・・・英虞湾で見られる植物プランクトンや動物プランクトン
- (10)三重における野鳥の希少種・・・県内の野鳥は 309 種類。その内 20 種類ほどは希少種・絶滅危惧種である
- (11)大山田村の化石・・・伊賀盆地に分布する地層から見つかった象やワニの足跡などの化石

3 研究のまとめ

当センターが運用する WWW サーバへのアクセス数は 1 日平均約 400 端末以上あり、利用者の関心が高いことがわかる。インターネットを利用した情報提供サービスを向上させていくためには、地域の特色を生かした学習情報を質と量共に充実させていくことが重要なポイントであることはいうまでもない。しかし教材づくりは、いくら技術が進歩しても人の手に頼らなくてはならず、担当者だけによる情報提供には限界がある。また、手を加えられなくなった情報にはそれ以上の発展を望むこともできない。そのためには、人と人が作る人的なネットワークを育成し、常に情報に手を加えていくことによって発展・充実させ、魅力あるものにしていきたい。